

三山木遺跡第6次発掘調査

京田辺市教育委員会

調査地 京田辺市三山木柳ヶ町 43 他
 (三山木地区特定土地区画整理事業地内 28 街区 7 画地)
 調査期間 平成 25 年 8 月 22 日～平成 25 年 10 月 31 日 (予定)
 調査面積 約 440 ㎡
 調査原因 集合住宅新築
 調査作業 株式会社イビソク

1. はじめに

三山木遺跡は三山木地区の区画整理事業に伴う調査で新たに確認された遺跡で、これまでに 5 回の調査が行われ、南山城地域で最も成立が古い可能性がある弥生時代の遺跡であることがわかっています。また、古墳時代の溝や奈良・平安時代の掘立柱建物跡、近世の用水池跡などが、多くの遺物とともに見つかっています。

今回は集合住宅新築に伴い、建設予定範囲を対象に発掘調査を実施しました。なお、排土置場の関係から調査区を東西にわけ、西区(約 220 ㎡)から調査を行い、現在は東区(約 220 ㎡)を調査しています。

2. 発掘調査内容

○西区で確認された遺構

第 1 面: [中世耕作溝群] →耕作に伴う溝

第 2 面: 北西部のみ確認

平安時代 (10 世紀)

[掘立柱建物跡 4 棟以上 溝跡] →ほぼ正方位

第 3 面: 奈良～平安時代 (8～9 世紀)

[掘立柱建物跡 8 棟 (内 4 棟は同じ場所での建替え) 以上 堀跡] →大きく西に振れた方向

第 4 面: 弥生時代 弥生前期を中心とした遺物包含層 遺構は無い

○東区で確認された遺構

第 1 面: [中世耕作溝群] →耕作に伴う溝

第 2 面: 西側第 2・3 面に対応

奈良～平安時代 (8～10 世紀か)

[掘立柱建物跡 井戸跡 祭祀遺構]

平安以降 (10 世紀以降)

[溝跡] →耕作に伴う溝

3. 成果

調査区から奈良～平安時代の集落跡、下層に弥生土器を多数含む包含層を確認しました。西区: 奈良～平安時代の建物跡と平安時代 (10 世紀) の建物跡とは大きく方向が異なり、大きな土地変化が認められます。3 回の建替えは、よほどの規制があったことが想像できます。

東区: 東区で確認された建物跡は、正方位で南面に庇をもつ [SB709] 2 間×3 間 (4m×5.5m)、大きく西に振れる [SB710] 2 間×3 間 (3.3m×5.2m) があり、西区同様 8 世紀～10 世紀にかけて 2 時期確認することができます。また、柵列 [SA715] は 4 間以上 (6.2m 以上) を測ります。井戸跡 [SE196] は 1.5m×1.5m×0.7m を測り、飛鳥～奈良にかけての遺物を確認したことから、建物群よりさらに古い時代の遺構と考えられます。また、[SX164] からは須恵器 (鉢) の上に黒色土器 (椀) が重なり須恵器甕体部で蓋をされた状態で出土しました。地鎮祭に関連する遺構とも考えられます。



第 1 図 調査区位置図



三山木遺跡 (みやまぎいせき) とは・・・山崎から北東にかけての微高地に広がる遺跡です。

主に弥生時代から中世の集落跡や墓などが見つかっています。

第 2 図 周辺の遺跡